

活動支援施設

●車両整備場(整備棟)

平常時には消防車両の点検整備を行い、大規模災害時には緊急消防援助隊の車両や活動資器材のメンテナンスを行います。



●車両庫(管理棟)

「本部救助隊(スーパーレスキュー)」と「特別装備隊」が出勤に備えています。



●備蓄倉庫(管理棟)

消防活動に必要な資器材を備蓄するスペース。大容量のラックを備え、搬送には10メートルの高さまで届く大型フォークリフトを使用します。

●給油所



●高圧ガス充填室

空気ボンベ、酸素ボンベを充填するための施設です。

本部救助隊(スーパーレスキュー)

消防局本部に配置されている本部指揮隊(スーパーコマンド)と共に本部指揮救助隊(スーパーコマンドレスキューチーム)を構成しており、災害現場では一体となった活動を行います。



●テロ災害を想定した訓練



●特別高度工作車(ブローアーク)



●大規模震災用高度救助車

特別装備隊

災害現場で活動する部隊の支援活動を行います。「燃料補給車」・「多目的物資搬送車」・「空気充填照明車」(火災現場で消防隊が使用する空気呼吸器用のボンベなどに、空気を充填する車両)等を運用しています。



●燃料補給車



●多目的物資搬送車



●空気充填照明車



●実火災訓練室(総合訓練棟, 2F~4F)

実際に火を燃やして火災の進行に伴う煙の充満や熱を再現し、逃げ遅れた人の救助や消火活動の訓練を行います。



●地下訓練室(総合訓練棟, B1)

地火火災を想定した地下訓練室や高層ビル火災に対応した訓練デッキなど様々な災害状況に応じた訓練施設を備えています。

●はしご車を活用した高層ビル火災訓練



●山岳訓練場

起伏のある山肌を再現し、より実践的な救助訓練が行えるようになっています。



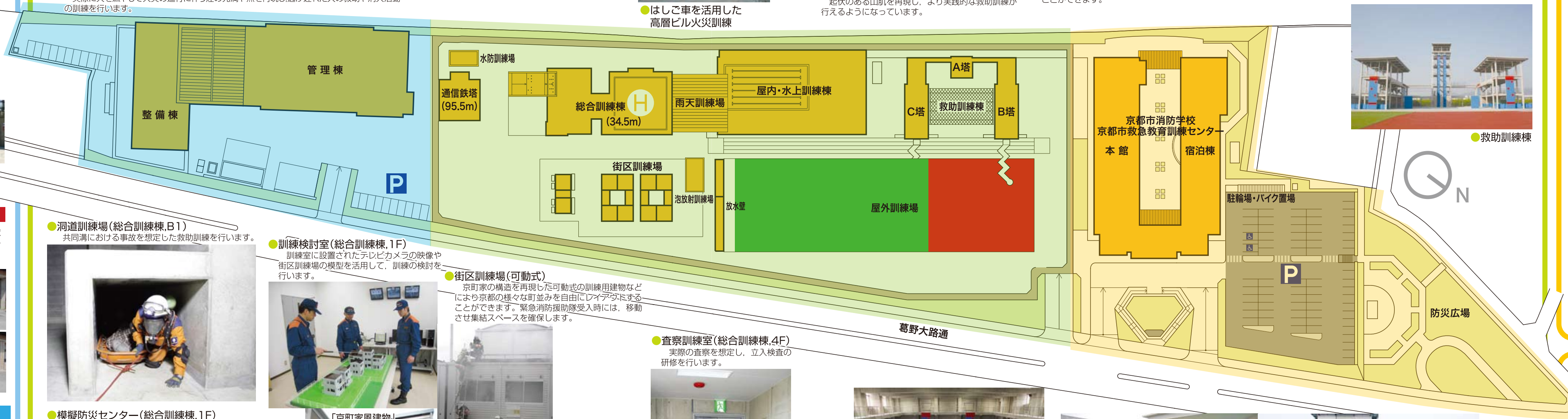
●潜水訓練場(水深10m)

水深10mにおいて水難救助訓練を行います。気泡発生装置で視界状況を変化させることができます。

訓練施設



●救助訓練棟



●洞道訓練場(総合訓練棟, B1)

共同溝における事故を想定した救助訓練を行います。



●訓練検討室(総合訓練棟, 1F)

訓練室に設置されたテレビカメラの映像や街区訓練場の模型を活用して、訓練の検討を行います。



●街区訓練場(可動式)

京町家の構造を再現した可動式の訓練用建物などにより京都の様々な町並みを自由にレイアウトすることが出来ます。緊急消防援助隊受入時には、移動させ集結スペースを確保します。



●査察訓練室(総合訓練棟, 4F)

実際の査察を想定し、立入検査の研修を行います。



●室内訓練場

室内訓練場では、小型動力ポンプ付軽積載車を乗り入れている操法訓練や訓練礼式のほか、ロープ渡過などの救助訓練等を実施することが可能です。緊急消防援助隊受入時には、バックスペースや物資荷さばき場として使用します。



●水上訓練場(25mプール)

ポンプにより水流を発生させることで、河川などの流水域での水難救助訓練を実践的に行うことができます。

消防学校(本館・宿泊棟)



●普通教室

●大教室

緊急消防援助隊受入時には、簡易宿泊施設として使用します。

●作戦情報室・作戦支援室

平常時は、視聴覚室として使用します。緊急消防援助隊受入時には、消防局の「消防指令センター」に直結し、リアルタイムで収集した災害情報などを元に、効果的で効率的な部隊運用を行います。



●防災広場

●分析実験室

ガスクロマトグラフィや熱分析装置などの機器を活用して、危険物等の性状判定試験や火災原因の鑑識などを行います。

救急教育訓練センター



●救急実習室

救命処置訓練を行うために必要な、観察用器材、蘇生器材などの救急資器材や訓練用的人形などが備えられています。さらには実物の救急車が設置され、一連の救命活動実習を行うことが可能です。